

• 既存のつながりはあるが、もっと可能性が広がりそうなケース

例：介護予防活動が功を奏してからだも心も元気になったAさん。

いろいろな場面で活躍できるが、そういった地域に活躍の場が少ない。

地域活動支援センターでのボランティアや、子ども食堂でのボランティアなどとのつながりを強化していけば、より活躍の場を増やし・広げていけそうである。

⇒ さまざまな分野・主体と協議し、活躍の場を作っていきたい

• 緊急性を要するケース

例：セルフネグレクトの状況にあり、低栄養状態で民生委員に発見されたBさん。

民生委員からの情報提供を受けて包括センターが訪問したところ、

長女は県外在住で疎遠、同居の長男はうつ症状が強く（妻は死別）、

孫娘は重度の知的障害であり、緊急的に複合的な支援が必要な状況であった。

⇒ 多機関が協働しての世帯支援を適切・迅速に展開したい

• 既存のつながりはないが、あればよいと思うケース

例：C市における分野を超えた共通課題として、銀行が少ない（通えない）、消費者被害の増加など、金融にまつわるテーマが見えてきている。

⇒ 行政と銀行等の金融機関との連携は未開拓分野であるが、

いずれはフィンテックサービスの創出や、ITリテラシー向上講座、

或いは消費者被害防止のための住民教室などを共催していけると良い